

Tudo bem? ブラジルより

学校教育課 島内三都子

★パラナヴァイで2週間が過ぎました。市立学校 18 校のうち、12 校の訪問を終えています。残すところ 3 日間、6 校です。中途半端な田舎より、タイムスリップしてしまいそうな田舎加減が実はとても落ち着きます。「ブラジルは怖い」と言われ続けてきましたが、ふとその言葉を忘れ、もっと意思疎通ができれば楽しめるのになあと思えるところです。

この写真、車の中から撮りました。言うまでもなく、後ろは大渋滞!!! やっと曲がった〜と運転手さん。いやあ、おもしろかったです。



授業 ing〜『マス計算』で奮闘中!!



「ウン マイス ドイス イグアウア トレース」(1 + 2 = 3)と、2年生 or 3年生を相手に、あやしいポルトガル語で一けたのたし算、ひき算の授業をやって歩いています。

“表のしくみ”を理解する早さに学校間の格差を感じますが、そんなことより2年生と3年生と一緒に授業をした学校で、学年の差がわからないという実態に驚きました。おそらく他の学校でそうしてみても、同じ様子が見えるでしょう。ということは？

クリチバ滞在中に一番耳に残った言葉が「ブラジルの教育で大きな課題は算数と母語」でした。『算数オリンピック』を催すなど、子どもの学力だけでなく、教員のやる気と指導力を高めるための策がとられているのがブラジルの現状です。そんな実態を受け、パラナヴァイでの活動を考えました。何をしよう？何ができる？言葉の壁をクリアせねばならず、内容的にも「なるほど」と思えることで…そうして『マス計算』に行きつきました。

指を使っただけの計算が主流です。1年生では数え棒を並べて学習していましたが、2, 3年生の計算力はまだまだです。指を使う→鉛筆を並べる(ものすごく膨れた筆箱の正体はコレでした)→棒を書くといった方法で答を出すため、時間はかかりますが一生懸命最後までがんばります。「タボン(いいよ)」「ムイトベン(よくできた)」と声をかけた時のうれしそうな顔は“いい顔”です。

6マスの計算 6パターンに挑戦した子どもたちは、きれいに色をぬってプリントを仕上げ、「家に持って帰って見せるんだ」とうれしそう。先生には、100マスまでの計算シートをプレゼントしました、頭で考えられるようになるまで訓練できるといいなあと思いつつながら。

11月は再びクリチバです。今度は6年生相手に、図形の授業にトライします。もちろんばりばりの日本語で子どもに話しかけ、通訳を介しての授業です。おそらく子どもの声が拾えない授業の厳しさを味わうことになることになるでしょう。でも、やってみます。一方的に聞いている授業スタイルにほんの少し石を投じることができたらとの思いで、今授業の準備をしています。

二度目の対面となる6年生の子どもたち。その子たちが、どんな表情でどう反応するかが今から楽しみです。どんなことになったかをまた報告いたします。

